

西江原 史跡顕彰会報

第 71 号

令和7年11月20日

会報第一号は昭和六十三年（一九八八年）三月二十九日発行

早雲公供養祭並びに 顕彰会総会について

今年も恒例になっている「早雲公供養祭並びに史跡顕彰会総会」を四月二十九日（火）昭和の日に長谷山法泉寺に於いて行いました。

多くの来賓の皆様をお招きしての供養祭となりました。

まず早雲親子の墓に参り、境内に入って西江原史跡顕彰会の落合清三会長の挨拶に始まり、大舌勲 井原市長様の祝辞などを賜り、早雲公供養祭は終わりました。

次に本堂で元井原市教育長 高木 浩朗 氏に演題「古代の謎に挑む」と題して記念講話をいただきました。その内容については四ページに掲載します。

続いて西江原史跡顕彰会の総会を開催しました。



思いつくままに！



西江原史跡顕彰会会長
落合 清三



西江原史跡顕彰会会報の原稿を依頼されながらも書けなくて、悪戦苦闘しています。

何をどのように書き留めればよいのか自分の中でも理解できていないまま、原稿依頼を了承してしまっています。

以前でしたらそんなに苦しまなくても書くことができていたのですが年齢のせい、さっぱり原稿になりません。語彙も浮かんでこず文章になりませんが、原稿として書き進めていかないと私の役割が務まらないので、元氣を出して頑張りたいと思います。皆様に大変ご迷惑をおかけいたしています。

さて何を題材にしようかと悩む中で史跡顕彰会の原点を探るためには、以前発行した「――ふるさとの絆――西江原の歴史再発見」の中に回答があると思って読み返してみました。本書の中には西江原の数々の歴史が記されており地域の歴史の重み、素晴らしさを改めて感じました。史跡顕彰会としては、この西江原の歴史を町民の皆様に広めていく努力をこれからも続けていきたいと思っています。

皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

「西江原 四国八十八力所」巡り

昨年に引き続き「西江原四国八十八力所巡り」を行い、四十六番札所から六十六番札所までを巡りました。

道中には、彼岸花やコスモスの花が咲いていました。

今年は非常に暑い日が続いていましたが、この日は爽やかで気持ちの良い日和になりました。

立戸公園を出発し小角地区から賀山方面へと坂道の多いコースでしたが、全員元気で予定よりも早く巡ることができました。



那須与一公追善法要並びに 袖神稻荷夏季大祭」について

西江原史跡顕彰会の大きな行事の一つである「那須与一公追善法要並びに袖神稻荷夏季大祭」を八月二十三日(土)に小菅城址にある袖神稻荷と、永祥寺本堂において井原市長大舌 勲様をはじめ多くの来賓の方のご臨席をいただき執り行いました。

奉納行事として「ヒーロー那須与一」(西江原与一太鼓)と井原市伝統芸能の一つである「道祖踊り」(みんよう愛好会)を披露していただきました。



小菅城址の 進入路の草刈り

今年も小菅城址の進入路の草刈り作業を、八月十七日に行いました。この日も熱中症警戒アラートが出る暑い日でしたが、できるだけ暑さを避けての作業になるよう午前七時から始めました。

今後とも継続していかなければと思います。参加して頂いた方本当にありがとうございました。



西江原史跡顕彰会研修旅行

西江原史跡顕彰会は久しぶりに研修旅行を計画し、五月十日(土)に、安芸高田市方面に行きました。

ここは戦国時代に郡山城を拠点として中国地方のほぼ全域を制覇し、一代で大国を築き上げ「戦国の雄」と称された毛利元就のゆかりの地で七十五歳で病死するまで二百数十回におよぶ合戦をくりぬけ、毛利を西国随一の太守にしました。

出発時は、どんよりと曇って、雨も心配されるような状態でしたが、昼前には太陽ものぞいて素晴らしい旅行日和になりました。

最初は、道の駅「三矢の里あきたかた」のレストランで昼食を取り、安芸高田市歴史民俗博物館に行きました。

ここには、特に毛利元就はもちろん、歴代当主の名が記される清神社棟札をはじめとする関係資料や郡山城の模型と映像などもあり詳しく紹介されていました。

博物館見学の後、トレッキングコースと神楽門前湯治村コースの二班に分かれ行動をしました。

トレッキングコースは郡山城を目指していきました。ツアーガイドによる元就の人柄や家紋の逸話など、次々に語られる歴史とエピソードを

聞いていると、面白くて時間も忘れるぐらいで、あつという間でした。さも忘れませんでした。

神楽門前湯治村コースは、この地方で盛んに行われている神楽の衣装等の展示やビデオによる紹介がありました。ラドン温泉にゆっくり入浴された方もありました。

十五時過ぎに両班が合流し、すっかり晴れ上がった安芸高田市を後にしました。

高速道から見ると、山々は新鮮な緑が鮮やかで、田植えをしている田も多く見受けられました。



西江原ふるさと探検

西江原の子どもたちに郷土を愛する心を育むため、文化財や史跡を訪ねて歩く「西江原ふるさと探検」が興学会と西江原地区青少年を育てる会の主催で十月十八日(土)に行われました。

天候にも恵まれて一年生の児童から保護者までの五十三人の参加者がありました。西江原史跡顕彰会も協賛しました。

今回の探検先は次の二か所でした。

①得脱稲荷神社

説明は法泉寺住職夫人

先納いづみ様

②諏訪神社

説明は西江原史跡顕彰会副会長

猪原完治様

次に参加された児童や保護者の方の感想文を載せます。

◆女子児童

今日のふるさと探検では、まず法泉寺に行つて得脱稲荷について学びました。

次に諏訪神社に行つて、色々な神社があることについて分かりました。今日のふるさと探検は楽しかったし、いろいろ学んだことを学校で生かしていきたいと思いました。

◆男子児童

法泉寺は約六百年の歴史があり、北条家とゆかりがある高越城との関係性についてまた同じ敷地内にある得脱稲荷について知ることができてよかったです。

戸倉にある諏訪神社については長野県にある諏訪神社に関係し、歴史を知ることができてよかったです。

当日は雲が多く暑くならないと思いましたが一転夏の暑さが戻ってきたので汗が出てきました。

普段の運動不足もあり疲れはしましたが気持ちの良い一日となったので非常に良いふるさと探検となりました。

◆女子児童

法泉寺で思ったことはすぐく屋根が大きくびっくりしました。

あと山に囲まれていて隠れているから隠れ里みたいな役割もあることを教えてもらってびっくりしました。

得脱稲荷では蚊にいっぱい刺されたけれど狐の神様がいますということを知りました。

あと狐の鳴き声を聞いたら山火事が



起こることを知りました。

◆保護者

初めて参加の一年生なので歩きぬくことができるかな? と少し心配していましたが、頑張つて歩く姿を見ることができうれしかったです。

学区外から通学しているのので、西江原地域のことをもつと知りたいたいと思いました。

説明もとても興味深く、楽しく聞きました。

◆保護者

天気予報では雨だったのですが、どうなるか心配していたのですが、当日は良いお天気だったので、歩いていて気持ちよかったです。

今回のふるさと探検ですが、途中で抜けることになってしまい申し訳ありませんでした。史跡のお話を伺えたのは法泉寺だけになりましたが歴史好きの私にとっては、とても楽しい時間でした。

特に心に残っているのは法泉寺に残っている摺袈裟のお話です。娘とどのような色と形をしているのかと想像しながら話をしたのが良い思い出となりました。

子どもだけでなく大人もそうですが、西江原の歴史を知ると郷土の見え方が変わってくると思います。受け継がれてきたこの郷土を大切にしていかなければならないと、改めて感じました。

高越城ドローン計測
成果発表会に参加して

高越城ドローン計測成果発表会が九月十二日に井原市役所でありました。

分析に当たった市文化財センターの首藤ゆきえ研究員が、

形のわかっていなかった「矢掛けの壇」と呼ばれる曲輪の形状が判明したことや、山頂部の主郭が「回」の字形であったことなどの説明がありました。

ドローンで計測すると詳細な地形の表現ができ、数百メートル四方を早く安価に計測できること、崩落などで分かっている当時のルート の 解 明 に も つ な が る と 説 明 がありました。

歴史・山城ナビゲーターの山城ガールむつみさんは「データを基にしたツアーを企画したり動画を製作すれば魅力がさらに増すはず」と話されました。

訂正とお詫び

前回の第七十号の二ページの「早雲の伝承」の原稿で誤りがありましたので訂正します。

二段目の前から九行目

・古爛仁泉大禪師を古爛仁泉大禪師に

四段目 前から三行目

・旧領を丘陵に

訂正します。



古代の謎に挑む

元井原市教育長

高木 浩朗 先生



三世紀ごろ多くの村を従えて豪族が支配する小さな「くに」が各地に出来た。出雲、日向、筑紫、大和、河内、尾張、毛野等全国に百あまり。吉備の国もその一つである。

四世紀ごろ各地の小さな国々は和朝廷を中心の一つの国になる。吉備の国の一部が「波区芸県」であり、波区芸県を治めていたのが「笠臣」である。では笠臣の始祖は誰だったのだろうか。

それには三つの神話がある。一つ目は笠岡市史にある神話である。

「笠岡市史」にある話(1)

「笠臣」とは「昔、応神天皇がかさめ山という山に登られた時、風が吹いて天皇の笠を吹き飛ばしました。お供をしていた鴨別の命が「きつとこの山の神が天皇に贈り物をしたいのではありません」と進言しました。そこで、この山で狩りしてみると、たくさん獲物が取れました。天皇はたいへん喜ばれ、

鴨別の命に『笠』の名を与えられたのです。これが「笠臣」や「応神山」のはじまりです」

同じ笠岡市史に次のような神話がある。

「笠岡市史」にある話(2)

「応神天皇が吉備に行幸した時、吉備臣の祖先であるミトモワケ(御友別)が天皇を迎え、その兄弟子孫を膳手(料理人)として仕えさせたので、天皇はたいへん喜び、吉備国を分割して御友別の兄弟子孫たちに治めさせました。

(中略)

御友別の弟鴨別には波区芸県を治めさせました。」

この神話からも鴨別が笠臣の始祖と伝えられていることがわかる。

笠臣の始祖が鴨別であることがわかる記述が日本書紀の中にもある。

高梁川の支流小田川の淵(木之子町鴨尾の淵)にかかわる治水伝説で、笠臣の祖県守(鴨別命)が大きな「みずち」を退治したという話である。木ノ子町では今も祭りの中の一つの行事になっている。

ではこの笠臣の本貫地(出身地)はどこであったのだろうか。

笠岡町生まれ大阪教育大学名誉教授鳥越憲三郎先生は著書「吉備古代大国」の中で「やはり笠臣の本貫地(出身地)は、本貫地を求めるとなると小田川沿いの古代の道が通っている地域でなければならぬ。実際その道に沿って豊

富な古代遺跡を見ることが出来る。『和名抄』の地名でいうと、小田郡では川の北側の実成(三成)や小田、南側の甲奴(甲奴、または後月郡に入ると、川の北側に荏原と南側の県主、さらに上流の足次の各郷である。)、と述べた後、「したがって波区芸県を治めていた笠臣の居住地は、この県主郷と称する地域であったとみてよいと思う。」と結論づけている。

県主郷を本貫とする根拠として

①神話のみずちを退治したのが

「笠臣の祖 県守」といい、県守の淵は今「鴨尾の淵」とよばれ、鴨別命とのつながりで、村祭りにも伝説として崇められています。

②小田川の支流稲木川の造る肥沃な土壌に恵まれた木ノ子・県主・上稲木・下稲木等の稲作地帯が有り、「稲置(古代地方の官の姓 村)」という古名もある。

③稲木川の中流域の丘の上には、県全体で二十個ばかりしか発見されていない銅鐸が、木ノ子町猿森、下稲木町兼安の字明見、同じ兼安山の寺尾、この地から三つも出土していることです。

このことからこの説は有力である。

笠臣はこの地を本拠に併合、戦い等により小田、浅口、後月の集落を統合して「波区芸県」を作り上げていったものと思う。

日本書紀の中に蘇我氏と井原にある屯倉について記したものがあ。敏達三年(五七四)蘇我馬子を吉備国に遣

わして渡来人白猪史と共に井原に五つの屯倉を増益させた。史人は田部の名籍を授けられ池溝の新設、新しい田づくり、水源確保などを主導させたのではないかと思われる。

井原市史に小田川流域・稲木川流域・走出も含めて条里制のあとが顕著に認められる。また新たに地溝を造成する等のことは、六世紀中葉にさかのぼり、いわゆる白猪屯倉の設置と共に始まったとされる。

「白猪屯倉の意義については今迄「波区芸県」の土地として、笠臣など豪族を中心とした農民の私有した「田荘・田庄」だったものです。それを古墳建設にかかわる笠臣と蘇我のつながりがあったのか、屯倉としてそれを天皇の直轄地として、収穫した穀物を屯倉(倉庫)に納め、税として天皇のものとなり、所有が豪族から変わったことになるわけです。」

今研究していることは

田部は何を残したのであろうかということである。渡来人史人が残した遺跡のことが「地名」としてあるだけで史人が田部の指導した池溝の遺構などが見えないのが残念である。

「久香ノ池」「出雲池」の原型が屯倉の仕事と考えられないかと思ったりしている。

高木 浩朗 著

「ふるさと小田後月浅口の古代の謎に挑む」を参照